

情報技術と コミュニケーション

土屋俊
(千葉大学文学部)

目次

- コミュニケーションと情報技術
- コミュニケーションのメッセージモデル
- コミュニケーションの推論モデル
 - 話し手の戦略と聞き手の戦略、共同の目的
- 現代のコミュニケーションの特徴
 - インターネットの「匿名性」(信頼の根拠)
 - メーリングリストとフレームアップ
 - メールとプライバシー
 - 携帯電話の将来
 - 情報の管理社会

情報技術とは：情報の生産、伝達、蓄積

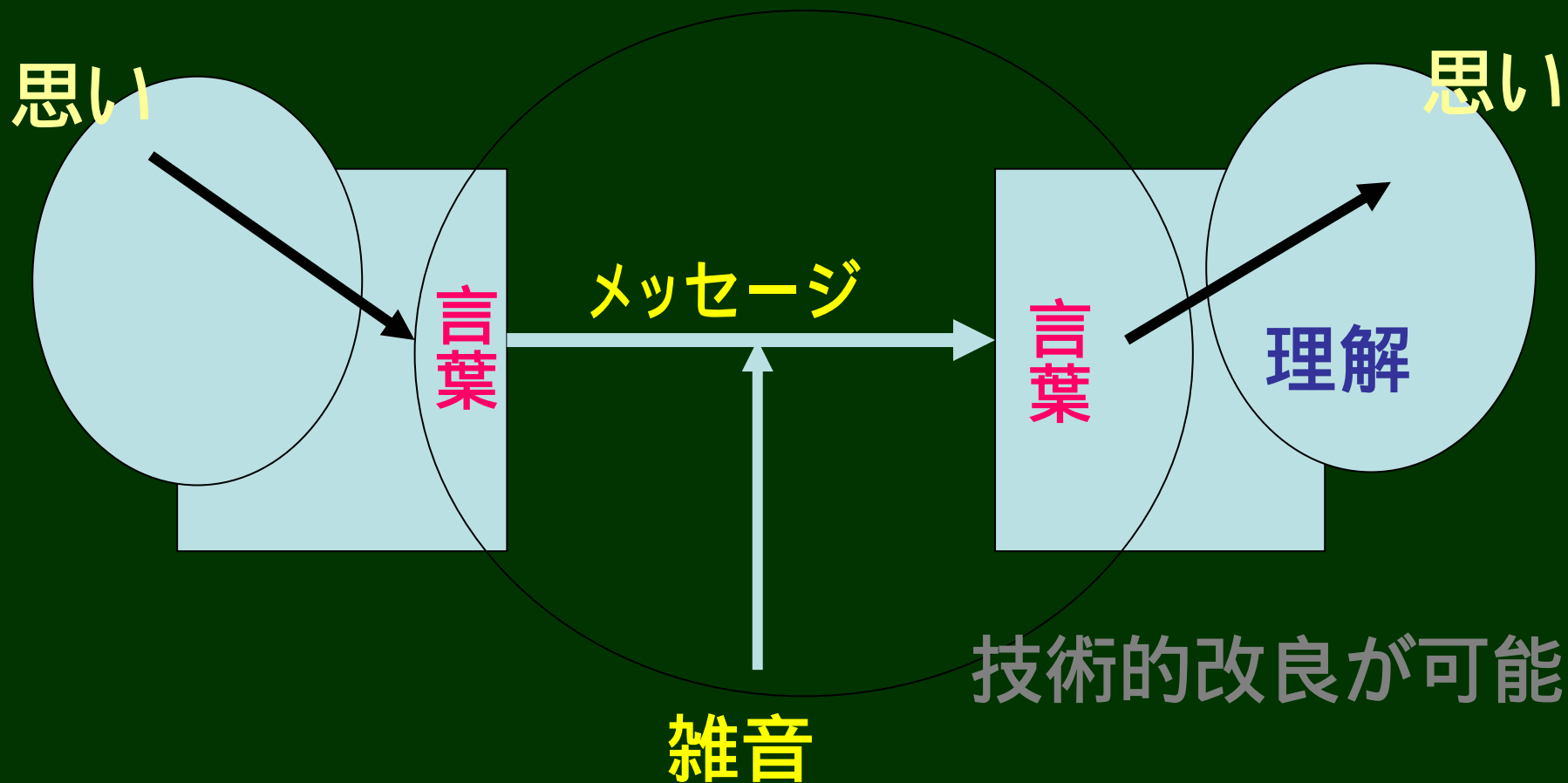
- 広い意味の情報技術

- 紙と鉛筆
- のろし
- 印刷術・図書館・図書目録・定期刊行物

- 狭い意味の情報技術

- タイプライター(1867または1873以来)
- ファックス・複写機(1842, 1862, 1934, 1964 (Xerox))
- 電信(1833)・電話(1876)
- ラジオ(1896マルコーニ、1912商業放送)・テレビ(1939)
- 計算機(1950年代以降)
- ネットワーク(1960年代以降)
- インターネット(1980年代以降実用化)

メッセージ伝達としてのコミュニケーション

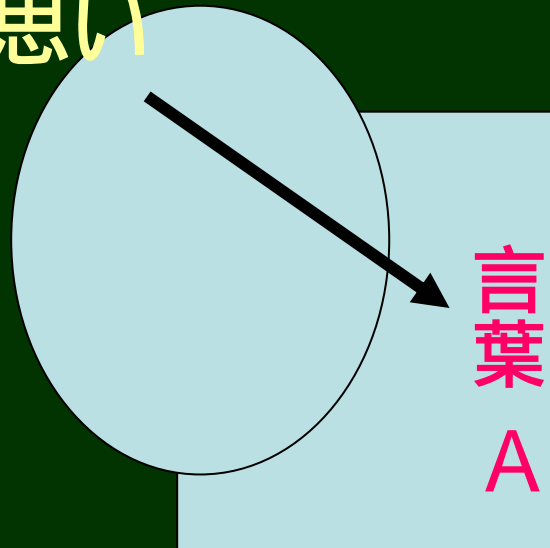


メッセージモデルの問題点

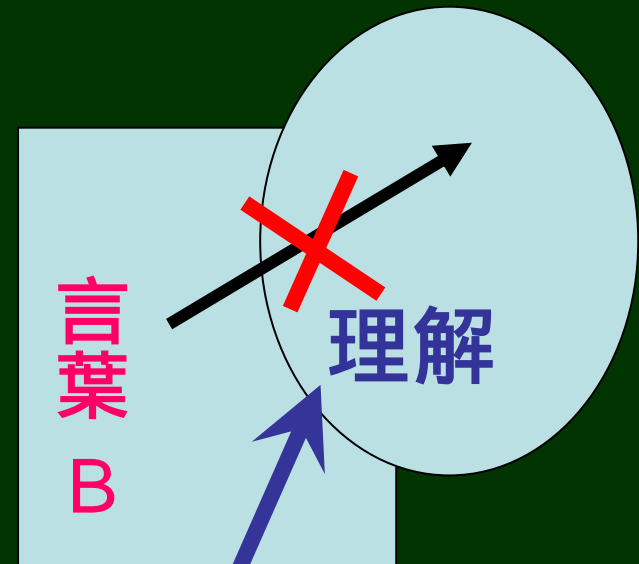
- 非字義的意味
 - 比喻
 - 皮肉
- 言語行為
 - 命令、依頼、約束、宣戦布告、判決、挨拶、暗示など
- 文脈への依存
 - 私、今、ここ、時制
- 非言語的伝達様相
 - 声の大きさ、音質、話すスピードなど
 - ジェスチャー、体の向き、視線方向など

コミュニケーションはメッセージ伝達でない

思い



発話の事実



文脈、状況(雑音)

コミュニケーションの推論モデル

- 話し手は一定の目的をもって**発話**する
- さまざまな種類の聞き手がいる。たとえば、
 - 話しかけられている人
 - その場に参加している人
 - 立ち聞きしている人
- (どの種類の)聞き手も一定の目的をもって理解のために推論する。推論の前提は、
 - 状況、文脈についての知識、信念(共有・非共有)
 - 発話の事実
 - コミュニケーションに関する通念
- 参加者が共同の事業に関与することもある

メッセージモデルの困難の解決

- 非字義的意義

- 推論するのだから、ずれがでるのは当然。ずれて理解したときに、「正しく」理解したことになることも可能

- 言語行為

- (理解によるかどうかは別として) 事実の表現以外のことが伝達されるのは当然

- 文脈への依存

- 状況と文脈は推論の前提

- 非言語的伝達様相

- 非言語的伝達様相は、状況と文脈の一部

推論モデルの教訓

- コミュニケーションの「成功」「不成功」は、
 - 話し手の作戦の巧拙に依存(作戦の巧拙は、相手についての認識の妥当性に依存)
 - 聞き手の作戦の巧拙に依存(作戦の巧拙は、状況などについての理解に依存)
 - 両者の作戦が、同一の共同目的によって支配されているときには成功しやすい
- したがって、
 - 発信者は、相手についての知識に注意！
 - 受信者は、状況についての知識に注意！
 - 仲間は差別的に優遇せよ！

インターネットの「匿名性」(信頼の根拠)

- 何を信じてよいのか
 - 名乗る必要のないコミュニケーション
 - 通常は、名乗る、顔を見せる、「生の」声を聞かせる
 - コミュニケーションの内容のみが真正性の保障
 - 状況要素が希薄になる
- 教訓：
 - 状況的内容を内容に含ませる
 - 署名は原則としてつける
 - 状況要素の明示化
 - ヘダー部を慎重に
 - 転送、返信などに配慮を(自分のコメントをつけるなど)

ヘダールの要素と注意点

- To:ここに羅列しない。
- Cc:誰が何を知っているかを知らせる
- Bcc:誰が何を知っているかを他人にしらせずに知らせる
- From:自分のメールソフトの設定できまる
- Subject:返信しないときは返信しない
- Date:時計は合わせる
- X-Mailer:文字化け解決のヒント
- Reply-To:思わぬ人に送らないように！
- Attachment:添付ファイルの種類を確認！

メール文化論

- 日本のメール
 - まず名乗る。
 - 用件を切り出す。
- 英文手紙の世界
 - まず呼びかける。
 - 最後に署名する。

聞き手がコミュニケー
ションの成否を支配
することが大事

土屋です。

今日はもう10月なのに、ずいぶん暑い土曜日を過ごしています。来週中にお目にかかって、ご相談したいことがあるのですが、ご都合はいかがでしょうか。当方は、木曜日と金曜ならあいています。

返事をすぐください。

安西さん、

今日はもう10月なのに、ずいぶん暑い土曜日を過ごしています。来週中にお目にかかって、ご相談したいことがあるのですが、ご都合はいかがでしょうか。当方は、木曜日と金曜ならあいています。

早めにお返事をいただければ、幸いです。

土屋

メールとプライバシー

- 郵便・電話・電子メール
 - 事業法の整備がまだ不十分
 - 社会メールはsurveyable (ウェブ利用も同様)
 - したがって、電子メールに「信書の秘密」があるかはまだ、不明
- 相手に信用されるためには、プライバシーや個人情報の開示が必要？
 - 「裸になる」「裸の付き合い」
 - 顔をさらす
 - 電話番号を伝えるなど

The diagram features a dark green background. At the top, a large white-outlined oval represents the Internet. At the bottom, a smaller grey-outlined oval represents the Intranet. A light blue square box labeled 'ログ' (Log) is positioned between them, connected to the Internet oval by a thin black line. To the right of the 'ログ' box, pink text lists 'ゲートウェイ、ファイアウォール、各種サーバ' (Gateway, Firewall, various servers).

インターネット

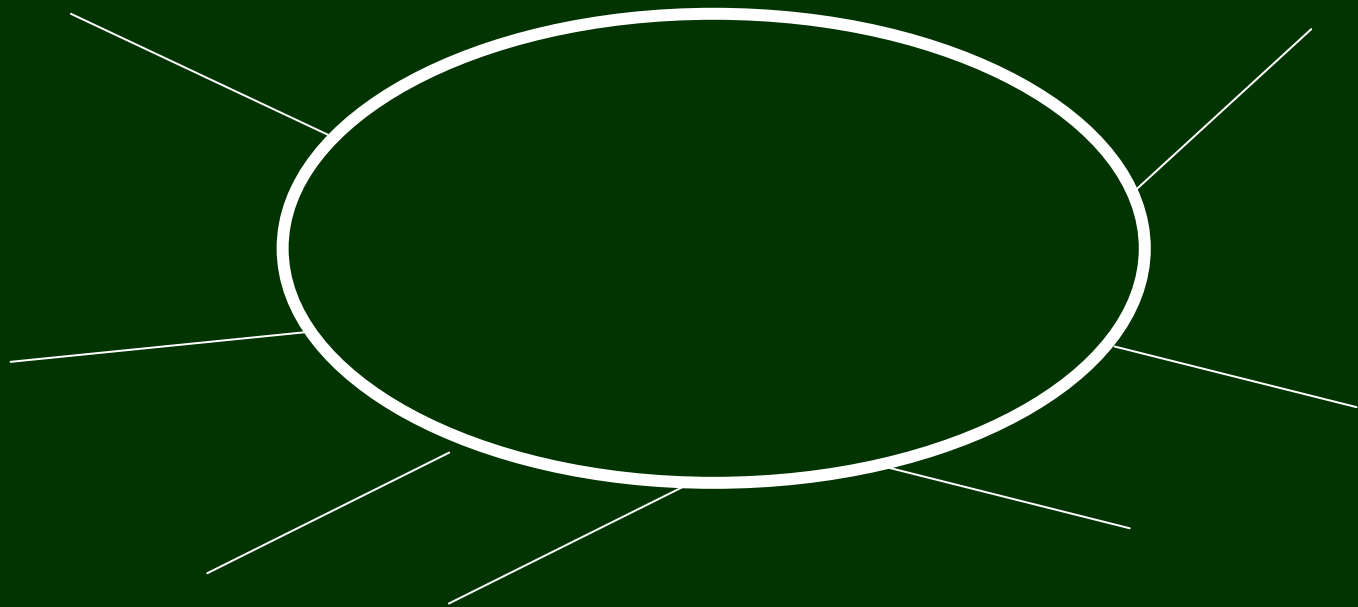
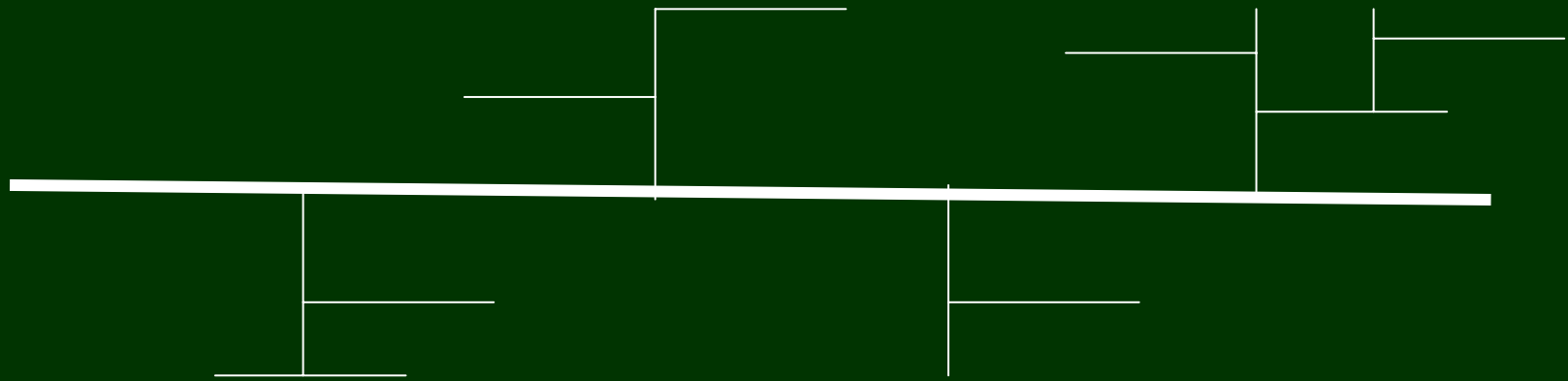
ログ

ゲートウェイ、ファイアウォール、各種サーバ

社内ネット

メーリングリストとフレームアップ

- Frame up でなく、Flame up
 - (もともとは、USENET Newsでの傾向)
 - メーリングリストは発火点が低い
 - 一人の人が犠牲者か、攻撃者になる傾向
 - 発言をやめると撤退とみなされて、残りの人に敗北と認識される(つまり、いい続けたほうが勝ち)
- 考えられる原因
 - 引用の容易さ(推論つきで理解しないで反応)
 - 別チャンネルによる参入手続きの不在
 - コミュニケーションの維持のみが存在を保証
 - 再参入手続きの不在



携帯電話の将来

- 機械が個人に属しているに思えるので、インターネットメールよりも「パーソナル」。同じ理由で、電話よりも「パーソナル」
- したがって、個人的コミュニケーションに中心になる(だろう)
- ここから、モバイル・ユビキタスへの展開？
 - 情報から知識への移行が困難
 - 「文書」を構築しない
 - その場限りの情報伝達
 - PDAも不十分か

情報の管理社会

- バーチャル・コミュニティ論、グローバル・ビレッジ論、ボランティア社会論など
- デジタルデバイド(情報格差が所得格差をもたらす)
- 情報の偏在化と「資本主義」の進行
 - 巨大メディアは存続
 - テレビネットワーク
 - メディア産業の独占傾向
 - 学術雑誌の独占傾向
 - アメリカへの情報集中
- そしてさらに、

個人情報管理社会

- 暗号政策

- インターネット通信は、放送とおなじ
- 暗号でコンテンツを保護
- 暗号方式の独占

- 認証の重要性の増大

- 暗証番号
- パスワード
- ICカード
- バイオメトリクス認証
 - 指紋、声紋、顔、瞳孔、虹彩、DNAなどなど